

2022年
2月10日(木)
第2例会

第2802回 No.59-24

本庄ロータリークラブ週報

クラブテーマ MORE INTEGRITY ~より一層の高潔性を~

会長の時間

平和と紛争予防・紛争解決月間

2

皆さんこんにちは、2月は「平和と紛争予防・紛争解決」月間です。本日は、ベトナム戦争のお話をします。ベトナム戦争は1965年(昭和40年)に開戦となり、戦争は長期戦となり開戦から6年、1971年に米軍の最後の切り札としてグリーンベレーが送り込まれます。グリーンベレーは、ジョン・F・ケネディーがキューバー危機の時に組織された特捜部隊で、米兵140万人の中で一年に入隊試験が受かるのは300人、言葉は二ヶ国語が話せて、頭脳優秀で運動神経がよく決断力全てが超一級の人が入隊出来る部隊です。アルカイダビンダビンの暗殺も、ヘリコプターでデーダーにキャッチされないよう10mで飛行、部隊はヘリーから飛び降り暗殺。又先般、カルロス・ゴーンが海外脱出に協力をしたのが元グリーンベレー兵で60歳であった。

ベトナム戦争は、今までの戦争の中で最も最悪な戦争と言われております。戦場にグリーンベレーが送り込まれることになり、ベトナム戦争に従軍記者として採用されたのが戸田勝身氏です。戸田氏は、ハーバード大学卒業後、ニューヨークタイムズに入社。

戸田勝身氏ですが青年会議所時代にベトナム戦争の講演をして頂きました。戸田勝身氏がグリーンベレーの従軍記者に決まったら三ヶ月間隔離され毎日朝から晩まで、腕立て伏せと腹筋運動をさせられたそうです。戦場に行くグリーンベレー兵は、一ヶ月の年金は300万円。但し、この年金が受け取れる条件は、生きて帰った人だけに出る条件だったそうです。戦場に行くと、米兵の後援支援で飛行機からパラシュートで降りるのですがパラシュートの紐を何本か切るそうです。

普通に降りると1分間に3,000発の発射銃で蜂の巣になってしまうからです。そしてジャングル木に引っかかって降りる。その時に気圧が急に変わるので爪から出血すること、そうゆうことを平気でやるのがグリーンベレー兵です。又食料を持たないで送り込まれるそうです。自分で食べ物を調達しなければ、コブラを捕まえてナイフで裂き、生臭いけど飲み込むとのこと、又寝るのにも寝られないところもあったそうです。ベトナムを立たせて頭を銃で打ち込むこともやったそうで、スイカが撥ねるように割れる。又ベトナムを寝かせて銃の角で頭をぶち破り脳みそを珍味だと食べさせられ、ある部隊では目玉の数で夕飯の量が決められたこともあったそうです。

SERVE TO
CHANGE LIVES



奉仕しよう
みんなの人生を豊かにするために

Rotary 国際ロータリー
第2570地区
2021~2022年度

2021~2022年度 国際ロータリー会長 シェカール・メータ
2021~2022年度 国際ロータリー第2570地区 ガバナー 水村雅啓
地区スローガン **もっと夢をもっと奉仕を**

会 長	金井福則	副 会 長	織田裕之
会長エレクト	佐藤賀則		須永秀和
幹 事	相川浩一		永井保之



金井福則 会長

戸田勝身氏ら米兵1,728名がベトナムに包囲され、二日間は睨み戦でしたが三日目から銃撃戦となったそうで、どこも隠れるところが無かったそうです。銃撃戦から五日後に米兵の救助が来ましたが、この5日間死体の下に潜り込み死体の肉と死体から湧いたウジを食べた人だけが生き残ったそうです。その生き残った数は1,728名中23名でした。これでアメリカは白旗を上げた。

戸田勝身氏もその生き残った23名の一人で、アメリカ政府から口止めされている事が多くあるそうです。そして、戦場では普通の神経では居られず多くの麻薬を打ったそうです。麻薬を抜くには、一年間水を飲み尽くすそうですが、二年間飲んだが抜けなかったそうです。今でも朝4時には目が覚め体には後遺症が残っているとのこと。皆さんは戦場と言うものをよく理解していませんが、戦場とは何でもありなんだとお話されました。戸田勝身氏の講演をお聞きし、私達は絶対に戦争してはならないんだと強く思った次第です。

